

第93回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録	
日時	令和4年10月31日（月）14時00分～16時20分
開催場所	横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス
出席委員	工藤委員長、有賀委員、今市委員、大久保委員、河合委員
欠席委員	なし
法人	小山内理事長、相原学長、後藤附属病院長、中條副学長、遠藤副学長 ほか
事務局	高倉大学担当理事、澤田大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 なし）
議題	<ul style="list-style-type: none"> 1 第92回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について 2 第4期中期目標について 3 第4期中期計画について 4 その他
決定事項	

議 事	<p><u>主要な発言は、以下のとおり。</u> (○：委員発言、△：法人・事務局発言)</p> <p>※議題1について<資料1> 内容については特に意見なし</p> <p>○議事要録というよりは詳しい議事そのものになっているようなので、次回以降要点を整理することを検討してほしい。</p> <p>※議題2について<資料2> (事務局より資料2-1の説明)</p> <p>○このパブリックコメントというのはどのように実施したのか。</p> <p>△市民意見募集を9月15日から1か月間実施した。周知方法は、横浜市役所等で配布、広報よこはま・Twitter・LINE・スマートニュースで行った。また、意見は電子申請システムを活用したため件数が伸びた要因だと考えている。</p> <p>(事務局より資料2-2の説明)</p> <p>○1ページの「横浜に貢献する大学」にこだわりがあるのか。</p> <p>△創設の経緯からも、横浜の地域の貢献する大学として、発展してきたと認識している。市立大学の目標にも、発展する国際都市横浜とともに歩むと謳われている。第3期から、共通のものと考えている。</p> <p>○横浜市に縁のない学生や外国から来た方に母国への貢献ではなくて、横浜への貢献を求めるとするのは、学生募集の上でも教員を集める上でも、度量が狭い印象を受ける。一般的に言う地域貢献と違い、横浜と限定した言い方をすると、せっかくやろうとしていることがマイナスに響いているのではないかと。</p> <p>2ページ目の「第2 業務の質の向上に関する目標」で、「新たな価値やビジョンを想像し、社会課題の解決を図ることができる未来を担う人材の育成に取り組む」とあるが、「社会的課題」とするとか、「人類や社会の課題」とか、もう少し広がりを持った課題の表現の方がよいのではないかと。</p> <p>4ページ目の「4 学生支援」で、「国の「修学支援制度」に基づき～運用を継続する。また今後の国の支援の拡大に対応し～取り組む。」とあるが、市あるいは市大独自の支援制度もあるのに国任せという表現になっているので、国の支援に合わせて横浜市なり市大なりの拡充も図るといような表現の方がよいのではないかと。</p>
-----	--

「3 医療」で、「横浜市が構築する「地域包括ケアシステム」に基づき、医療・福祉・介護の連携に積極に取り組むとともに～大学病院として期待される使命を果たす。」とあるが、大学に任せて良いのか。都道府県が医療行政の一環として繋げながらやってほしいが、そこは書ききれているのかと気になった。

6 ページ目の「第4 財務内容の改善に関する目標」の、「国の科学研究費補助金や企業等からの受託・共同研究費等の獲得に努める。」とあるが、様々な厚労省厚生科研費や各種財団などの補助金・助成金も含まれる表現にした方がいいのではないか。

7 ページ目の「第5 その他業務運営に関する重要事項に関する目標」に「1 新設・再編の学部・研究科の検証」とあるが、①と②の間に及びを入れたらどうか。既設の再編も新設もしていない学部・研究科の検証はしないのかという課題は残る。

○2 ページ目の「(1) 未来を担う人材の育成」で、「今後の予測不可能な時代の中で～未来を担う人材の育成」は、これが全部できる人材の育成に取り組むとなると表現が重たい気がする。具体的にはかぎ括弧の中のことに注力して教育活動を行っていくなど、その程度がよいのではないか。

5 ページ目の「6 グローバル展開」で、グローバルと強調している中で、英語ネイティブの専任教員、研究室を持つ教員を増やしていった方がマッチするのではないか。

○2 ページ目の今指摘のあったかぎ括弧は、どこから引用したのか。

△政府の教育未来創造会議で、未来の人材像というのが議論されており、その要素の中で、市大が今までやってきたものに特化して短く表したものの。

○リカレント教育について、3 ページ目に「(5) 社会人の学び直しの強化」とあり、7 ページ目の「5 みなとみらいサテライトキャンパスの積極的活用」で、「社会人がキャリアアップを図るためのリカレント教育」とある。実際に学び直しという時には、働きながらキャリアアップを目指すものと、全体的に学び直すということがあると思うが、リカレント教育をどのようなイメージで考えているのか。

△教育未来創造会議や、骨太の方針でも、生産年齢人口が少なくなる中でスキルアップしてもらい、新しく付加価値の高い仕事に就くことができる、そういった学び直し・リスキリングは、今後日本でも必要となり、大学に担い手として期待が寄せられている。市大でも今後もっとやってもらいたい。

例えば病院経営の人材の専門の講座、企業と連携してオールイングリッシュで社会課題をビジネスに結び付けるか検討するコースなど、そのようなことを今後充実してもらいたい。

○国の方針はもっと幅広いと思うが、現場で働いている方たちのスキルアップ、その辺にターゲットを絞って実施するという理解でよいか。

○4 ページ目の「3 医療」の「(2) 地域医療機関との連携及び機能分担の推進」について、「横浜市が構築する「地域包括ケアシステム」に基づき、医療・福祉・介護の連携に積極的に取り組む」という主語は大学病院でよいのか。大学病院として期待される使命が、地域医療機関と関係構築を図ることと、地域包括ケアシステムに積極的に取り組むこととなってくると、地域中核的病院と小ぶりの病院のそれぞれの役割を踏まえた上で、自らの医療圏である横浜市の全体のネットワークや、地域の患者さんたちが、地域包括ケアシステムに関わってくることから見ると、最初の3行は、本当のことが書かれていないのではないかと懸念がある。上手に「大きい病院、小さい病院、地域包括ケアシステム」という全体を俯瞰するような観点で書き直した方が良いと思う。「また、」の後は「地域の中核的病院が地域の医療機関に対して様々なことに積極的に関与し、地域医療全体の質の向上に貢献する」というようなことを、より具体的にわかりやすく書いてほしいと思う。

△「地域包括ケアシステム」は、回復期医療や介護等、地域に密着し、自治体主体で取り組んでいくものなので、この言葉を生かすのなら、大学として地域包括ケアシステムを学生に学ばせる、大学として協働するといった表し方がよいと思う。

○医師会というのは横浜市医師会をイメージしているのか。

△これは横浜市の計画なので、基本的には横浜市医師会と思う。

○横浜市の病院会は、〇〇病院協会なのか。

△横浜市病院協会となっている。

○医師会については一般名のように見えて、なおかつ病院協会と書いてあると、後者が具体的な固有名詞をイメージして書いているのかと思う。固有名詞ならそのように記載されたい。東京は東京都病院協会、東京都医師会である。

○病院と言うのは、患者のアクセスや通院を考えるとエリアは限られる。横浜市の病院であるというものの、横浜市の全域をカバーするというのは無理なので、それを大学病院に全部背負わせるのは酷ではないかという気がする。むしろ県全体、市を超えて、県を超えて病人をどうケアするかというのは、ネットワークを融通しながらやって欲しいと思う。市大がどんどん発展してほしいと思うが、市大に横浜市内のネットワークとか、進行管理とか、全部背負わせるのは酷なので、現実合った市大病院の果たす役割、期待される役割をスマートに書いた方がよいのではないかと。

○中期目標の中に明記してあるが、大学を有する側すなわち地方自治体である横浜市が何を求めるのかという観点で考えるべきだと思う。受けて立つ法人側、大学側があまりにも消化しきれない、あまりにもこれが課題であるということであれば修正は当然横浜市側と議論の上で必要だろうという立ち位置でみるべきと思う。

未来を担う人材の育成というところは、文章の骨子をもう少しシンプルに書いた方がよいと思う。例えば「データ思考や～コミュニケーションを図る」、かっこはこのあたりで区切って、これにより「新たな価値やビジョンを創造し」をかぎ括弧から出した方がわかりやすい。かぎ括弧の中が長すぎるので、要求基準が高すぎる。前後の軸が多いので、かぎ括弧外の最後の結ぶところの表現の「未来を担う人材」というところに付け替えて書いた方が分かりやすい。

横浜に貢献する大学というところで、有する側の地方自治体である横浜市から見ればこう書くしかないと思う。実際に大学側が書いた具体的な計画を見ると、理念が国際交流都市横浜とともに歩み、地域貢献、横浜に貢献する大学、法人がどうやって具体的に展開していくかということが書かれているのだから、法人がどう受け入れ、咀嚼し、応用性を持っていくかということなので、ある程度仕方がないと思う。

リカレントについては、市大は、内容的にも実践的な講座もあるし、企業アントレプレナーとか、趣味、地域に限ったようなものもあり、語学等幅広いものもある。リカレント教育の充実というところでは、社会的な貢献、地域の課題に沿った効果があるかどうか、今後はもっと検証した方がよい。

○横浜に貢献する大学という言い方は、横浜市とも横浜市民とも言うておらず、何を指すのか不明な上に狭量な言葉のように思う。

○あるいは、国際交流都市横浜に貢献すると言ってもよいのではないかと思う。そうすれば市大の理念と基本的に一致する言い方にはなる。

○例えば、資料3-1の2ページ目に、YCUミッションというのがあり、ここの言い方は「国際都市横浜とともに歩み～市民の誇りとなる大学を目指す。」とあり、横浜に貢献する大学になると言うよりは、「市民が誇りとできる大学」を目指せというのはまだわかる。横浜に貢献するというのはおかしいと思う。

3ページ目に「(4) 地域医療を担う人材の育成・確保」とあるが、資料3-1、15ページ目に「4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用」というがあるので、これは「1 教育」の方ではなくて、「3 医療」の中に入れたい。教育でどういう人材育成をするかと

というのは、医療人材だけではなくて、横浜の経済の活性化のための経済人の育成、データサイエンスでデータを駆使した人材育成もあるかもしれない。こういう分野の人材育成で、医療人材だけ特出しされてここに入れるというのは違和感がある。大学側は、医療の方のくくりに入れているので、その方がよいと思う。

△頂いた意見を踏まえ、中期目標（案）をまとめる。その後12月の市会に議案として提出し、議決後市大に提示する。最終的な目標案は、委員にも送付する。

※議題3について<資料3>

（法人より資料3-1～3-3の説明）

○1ページ目の市民のWELL-BEING実現という、この横文字の使い方は誰に読ませることを想定しているのか。

△横浜市からの中期目標に、「市民のWELL-BEINGに向けて」と書かれており、市民に見ていただくことを想定している。また、中期目標に従ってやっていくという意味もある。

○中期目標のどこに記載があるのか。

△中期目標の3ページ目に記載がある。

○中期目標に記載されていたら、記載せざるをえないのか。

△実際に市民のWELL-BEINGに資する中期計画を立てている。

○中期目標の3ページ目の下から3行目の所に記載があるが、横浜市が市立大学読ませるという意味で記載し、これを受けた大学は、これを市の人に見せるということか。

△法律の狭い意味で言えば、市大に提示するということになるが、横浜市がこういうものを作っているということは、広く市民にも知ってもらうという意味で公表していくので、英語の表記の仕方は適切かどうか検討する。

○11ページ目の「【16】研究者の育成」で、若手研究者や女性研究者を育てるためには、異分野融合研究が必要だというように読めてしまうが、そういう意味ではないということでしょうか。特別にこういうプログラムがあるということか。

△そうである。異分野融合研究を進めていきたいという大学の意思を示したいということと、そういったフレキシブルな考え方を持つのは若手研究者に多い。もちろん異分野融合研究以外の研究をしてはいけないというわけではない。

○これは文章を変えた方がよいのではないか。これでは、若手研究者や女性研究者以外は異分野融合研究を促進できないというように読める。

○リカレントについて、9ページ目の【11】で、主な指標は2番目にプログラム設置数としているので、いくつかをプログラム設置するのはよいが、そろそろ市大のリカレント教育というのは、どういうものをターゲットにするのか考える時だと思う。狭いところにターゲットを絞るというような話だったので、設置数だけでなく、どういうものにするか議論する審議会を作るとか、他大学とも連携するとか。独自のものを出すというのは重要だと思うので、その辺を加えてもらえるとよい。

△確かに数だけでなく、内容について何かしらの指標があった方がよいと思うので、特に市大が目指しているところがわかるような書き方にすべきだと思う。

○12 ページ目の「Ⅲ 医療」の医療安全という言葉について、患者安全と書くべきだというようにだんだんできてきているらしい。医療安全の方は、医療者を含んでいるので、患者安全より概念としては広いようだが、患者安全も医療者を含む語彙として理解されている。この題名が「医療安全の取組」で、「【18】 安全・安心な医療の提供」でも「医療安全文化」と記載してあるが、そこを「患者安全文化」としてもよいかも。このように言葉遣いの変化していく議論もあるので、このところは練るとよい。

○地域包括ケアシステムについて、14 ページ目の【24】の上から2行目、「地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みに寄与する」とあるが、このままだと地域の中核的な病院と医療介護連携の要となる中小病院を含めた地域包括ケアシステムに寄与するということとなる。例えば新型コロナウイルス感染症の感染管理について、大学病院から地域の病院に教えに行くという話があるので、深読みすれば「寄与する」というので問題ないと思うが、平易な説明に変えた方がよい。

15 ページ目【25】5行目に、「医療人材が将来的に横浜市医療に貢献できるよう、基幹型臨床研修病院として積極的に地域の医療機関での研修を進めていく」とあるが、基幹型の病院の臨床研修医が、地域の医療機関での研修もやる。例えば研修で求められる地域医療、外来診療の中に慢性期の再診患者を診るというのが研修項目の中に入っている。大学病院は、慢性期の再診患者をずっと診ることはありえないので、大学病院である基幹型の臨床研修病院で研修する人は、地域の病院に出ていかないと慢性期の再診患者を診ることはできない。従って、そういう観点で将来的に横浜市に貢献するという話は、おそらく地域包括ケアシステムも含めた研修となるので、大学病院という中核病院と医療介護連携を展開する中小病院の関連性でいうと、横浜市の医療は後者をより意識した文面だと思っているので、そういう意味でメリハリを利かせた方がよい。

○1 ページ目の3で、「市における厳しい財政状況を受け、自主財源を確保し」とあるが、市の財政状況が厳しいから自主財源の努力をするわけではあるまい。市の財政状況の良し悪しにかかわらず、大学として自主財源を求めるのは大事で、これまでも実施していると思うし、これからもそれは同じなので、ここは、「厳しい財政状況を勘案しつつも自主財源を確保する」とかに修文した方がよいのではないかと。16 ページ目の【29】でも同じ表現を使っているので、こちらもあわせて。

1 ページ目の4で、改めて「横浜市が大学を有する意義」とかぎ括弧をつけて、意義を「意識しながら」とあるが、かぎ括弧のところを、「市立大学の役割なり使命」を「意識しながら」とした方がよいのではないかと。

1 ページ目の一番下で、「大学の存在意義を内外に発信し」とあるが、わざわざ発信するか。それよりは「大学の存在感を高め、横浜市民はもとより」という表現ではどうか。

3 ページ目の「Ⅲ 医療」の○で、「明日を担う質の高い医療人を育成」とあるが、目次の医療の4番目の「明日を担う質の高い医療人材の育成と活用」が15 ページ目にも同じ記載があるが、これは揃えなくてよいのか。医療人と医療人材、活用を入れるのか入れないのか、もう少し気を使った方がよいのではないかと。

リカレントについて、9 ページ目と21 ページ目に同じような表現があるが、市大で実施するリカレント教育は、現役の社会人だけが対象なのか。無職者や主婦などで知的好奇心を抱いているような人は排除され、かなり限定的な記載のような気がする。「市民が受講しやすい」という言い方もあるかと思う。

19 ページ目の【40】に「将来に渡り横浜市民の健康と命を」とあるが、「亙り」の字がよいのではないかと。また、横浜市民の健康と命を本当に守り切れるのか。たまたま旅行にきた外国人や市外の人の命も守るのだから、ここは横浜市民というよりは患者とするのか。外国人も含めてシチズンということで「市民」のまま反映させる手もあると思う。

評価指標をいろいろ記載しているが、難しい指標もある。もう少し基礎的なデータとか、よくやっているというデータが出れば、大学としても書きやすいだろうし、この委員会でも実績評価をする時にも判断しやすい。そういう評価しやすいデータをいろいろ持っているはずなので、それぞれに合うような基礎的なデータもあった方が、プレゼンスが立つのではないかと。

○中期目標の、優秀な人材の獲得と、中期計画の多様な個性や能力のある学生の確保の対比で、市の目標は、「積極的な広報活動を進める」というのが文言にあるが、大学の計画には、広報とか情報発信の記載がないので、そういうニュアンスのことを入れた方がよい。
16、17 ページ目のガバナンスの強化とかコンプライアンス推進は、大事だと思うが、この中に積極的な情報公開、経営の透明性とか、そういったニュアンスの表現が見当たらない。ここのところの不祥事に対する情報公開を求めるような市民の声など、ネット上では少なからずあるし、然るべき情報開示はしっかり行うという姿勢はどこかで見せた方が、市民からのニーズに答えられるのではないかと考えているので、どこかにメッセージを入れてほしい。

○前回の中期計画もそうだし、今回の中期計画案もそうだが、細かい数字目標が各項目ごとに多すぎる。大きな骨子にフィットするような大きな目標数字がある方がよい。世の中ほとんどんそういう流れになっている。大きな骨子目標を経営側が持つとしても、担っていく方々が、このベクトルに合わせてどんな自己目標を持つのかという方がより求められている時代になっているので、その方向感で考えた方がよい。
法人経営について、あえて継続するリスクマネジメントの取組やコンプライアンス推進の取組を強化し、そのうえで事件、事故の不祥事の防止を徹底するということがあるわけか。
16 ページ目で、1 ガバナンス、2 自己収入確保、4 はもう少し上位でもよい。
17 ページ目の4【32】は、過去にも同じような表現がずっとされている。絞り込んでくると、研修しか浮かび上がってこない。同じ研修でも、トラブル防止する事例の研修とか、もっとリアルな研修だとか、そろそろ類似例の実践的な研修も入れてもよいと感じた。
最も重要な取組というのは、学内のネガティブ情報や予兆というものをどれだけ経営側が把握しているかということ。学長、理事長に直轄するような統括部署的なものをそろそろ検討した方がよいのではないかと。それは世の中に対してこういったことをやっているということにもなるし、実践研修とかの企画もできるし、そろそろそういったことも検討されるということ、この中期計画の中で議題になってほしい。

○19 ページ目の【37】に「戦略的広報」とあるが、広報に関する責任を持った組織があってもよいのではないかと。市民に対してアピールするような広報は必ずしもうまくないのではないかと。
同じく 19 ページ目の7の【39】の、「統合・再整備に向けた診療行為の標準化・効率化に加え」とあるが、効率化というのは統合があっても無くても必要だと思う。「統合・再整備に向けた診療行為の標準化・効率化に加え」というのはなくした方がよいのではないかと。つまり、「連携を強化し、各々の強みや特色を生かした診療を行い、診療機能に見合った収益を確保していく」とする。

○ご指摘の通りと思う。この文章が無くても意味は全く同じように通る。ただ、使用する物品やクリティカルパスの流れなど、2つの病院にはかなり差があり、統合までには共通化しておかないといけないと重く受け止めている。

○今までもやっているもので、「一層強化」や「一層進める」などの表現でどうか。

△中期計画の記載としては細かいかもしれない。

○広報のことで、国際都市横浜を標語にしていると言っていたが、喫煙コーナーに掲げられている看板では「環境未来都市横浜」英語では「future city yokohama」とある。変に感じられる標語である上にそれぞれの部局でばらばらにやると、結局市全体としての広報効果の足を引っ張るようなことになるのではないかと。

※議題4について

特になし

【事務局】

本日は、任期中最後の委員会になるので、事務局及び市大より一言、お礼を申し上げたい。

	<p>(事務局から委員にお礼)</p> <p>(法人から委員にお礼)</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料1 第92回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録(案)</p> <p>資料2-1 公立大学法人横浜市立大学第4期中期目標(案)について</p> <p>資料2-2 公立大学法人横浜市立大学第4期中期目標(案)</p> <p>資料3-1 公立大学法人横浜市立大学第4期中期計画(素案)</p> <p>資料3-2 【参考】第4期中期計画指標案</p> <p>資料3-3 【参考】中期目標素案・中期計画素案対比</p> <p>[参考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>